

第 3 回

第 2 次千葉市学校適正配置検討委員会

日 時	平成 1 8 年 1 0 月 2 3 日 (月)
	午後 2 時 0 0 分
場 所	千葉市教育委員会第 1 会議室

会 次 第

1 開会

2 教育委員会挨拶

3 委員長挨拶

4 報告・審議

(1) 報告

花島小学校児童へのアンケート結果

第 2 次検討委員会の会議経過

(2) 協議

検討事項 1 「学校適正配置のあり方」中間報告 (案) について

答申「学校適正配置の基本的考え方」構成案について

検討事項 2 「学校適正配置の取り組み方」について

5 閉会

千葉市教育委員会

第2次千葉市学校適正配置検討委員会委員

委員長、○副委員長

区分		氏 名	所 属
学識経験者		明石 要一	千葉大学教育学部長
		貞廣 斎子	千葉大学教育学部 助教授
関係団体の代表		秋元 裕子	千葉青年会議所 直前理事長
		大和久 清子	千葉市 P T A 連絡協議会 副会長
		小川 博子	千葉市青少年育成委員会会長会 緑が丘中学校区青少年育成委員会会長
		田原 洋子	千葉市子ども会育成連絡会 会長
		升川 光博	千葉市教育研究会 事務局長
市立学校の代表		市川 百合子	○千葉市立小学校長会 副会長
		鵜飼 憲雄	千葉市立中学校長会 副会長
市民の代表	若葉区	安達 満夫	若葉区町内自治会連絡協議会 会長
	花見川区	黒田 實	花見川区花見川団地自治会長（元花見川四小・五小地元代表の会座長）
	中央区	佐藤 勇吉	中央区町内自治会連絡協議会 会長
	緑区	豊田 洋祐	緑区町内自治会連絡協議会 会長
	稲毛区	長井 巧	稲毛区町内自治会連絡協議会 会長
	美浜区	長岡 正明	美浜区千葉幸町団地自治会長（幸町一小と四小を考える会座長）
	美浜区	吉岡 靖之	美浜区磯辺自治会長（元磯辺二小・四小適正配置研究会座長）

（学識経験者等区分別に五十音順で記載 敬称略）

資料1

花島小学校に関する意識調査

教育総務部企画課

報告事項1 花島小学校に関するアンケート調査について

1 意識調査の実施

①意識調査の目標

統合後の児童の感想を調査することにより、今後、学校適正配置を推進するための参考資料とする。

②意識調査の実施方法

(ア)対象者 花島小学校の2年生から6年生の全児童302人

(イ)調査方法 担任の先生が質問を1問ずつ読みながら、回答する。

該当すれば複数回答ができる。

(ウ)調査期間 平成18年8月29日(火)から31日(木)で実施

(エ)回答者数 293人

(オ)回答率 97% (未回答は欠席者)

2 意識調査の結果

(1)花島小学校になってからどんなことに努力してきましたか

	2～6年	0%	20%	40%	60%	80%	100%
友達と仲良くする	87%						
きれいな学校にする	40%						
運動会など行事を成功させる	40%						
児童委員や特設クラブの活動がんばる	33%						
学級の仕事をしっかりやる	30%						
新しい学校の歴史をつくる	11%						
その他	4%						
無回答	0%						

(2)教室の様子は去年と比べてどう変化しましたか

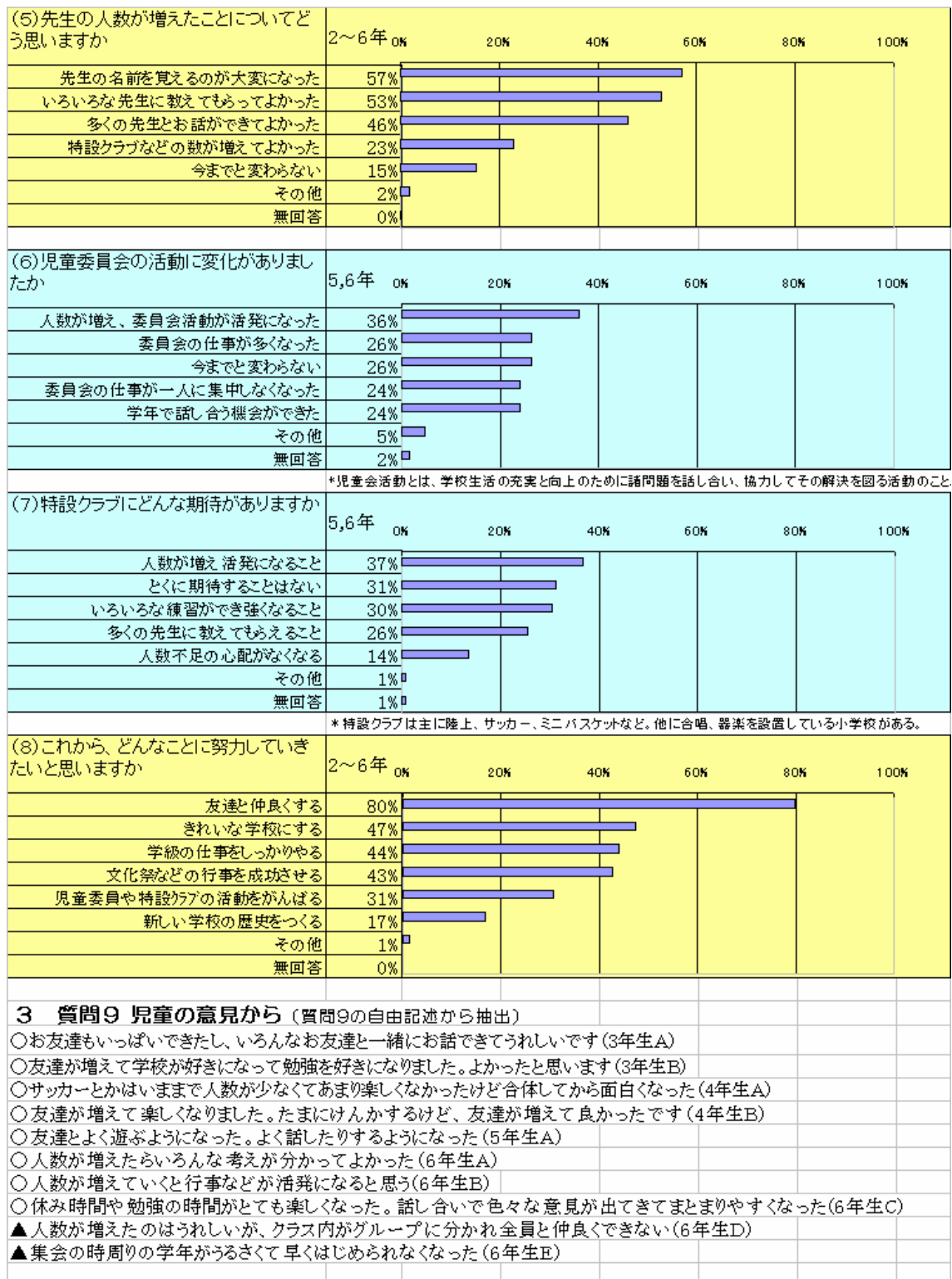
	2～6年	0%	20%	40%	60%	80%	100%
新しい友達ができ	89%						
明るい雰囲気になった	47%						
学習が楽しくなった	45%						
意見がまとまりにくくなった	18%						
今までと変わらない	11%						
その他	3%						
無回答	1%						

(3)昼休みなど休み時間の過ごし方は、去年に比べてどう変化しましたか

	2～6年	0%	20%	40%	60%	80%	100%
遊びの仲間が増えた	77%						
遊びの種類が増えた	52%						
よく外で遊ぶようになった	51%						
今までと変わらない	17%						
遊ぶことが少なくなった	10%						
その他	3%						
無回答	0%						

(4)遠足や運動会などの行事に変化がありましたか

	2～6年	0%	20%	40%	60%	80%	100%
人数が増えて行事が楽しくなった	66%						
行事に迫力や活気ができた	42%						
行事に積極的に参加するようになった	22%						
今までと変わらない	20%						
行事をやるのがたいへんになった	20%						
その他	2%						
無回答	0%						



4 アンケートの結果の概要

多くの児童が、統合の結果よい変化が現れたと感じている。

・「(2)教室のようすはどう変化したか」の質問において、「新しい友達ができた」261人 89%、「明るい雰囲気になった」137人 47%、「学習が楽しくなった」132人 45%と、教室の変化を前向きにとらえている。反対に変化をマイナスにとらえる意見は、「意見がまとまりにくくなった」52人 18%、「今までと変わらない」31人 11%と、20%以下であった。

統合後の児童の活動について

昼休みの過ごし方についての質問では、「遊びの仲間が増えた」226人 77%であった。行事の変化についての質問では、「人数が増えて行事が楽しくなった」193人 66%、先生の数が増えたことについての質問では、「色々な先生に教えてもらってよかった」155人 53%であり、児童は概ね変化に肯定的で、児童の活動が活発化していることが伺える。「遊ぶことが少なくなった」28人 10%、「行事をやるのがたいへんになった」58人 20%など、活発化したことに対するマイナスの意見は 20%以下であった。統合後、児童の活動が多面で活発化していることが明らかとなった。

低学年ほど統合の成果がよく現れている。

・学年の回答の傾向には大きな違いは見られないが、2年生など低学年ほど統合の変化への反応が敏感である、教室の様子の変化について、「学習が楽しくなった」が2年生 35人 67%に対し6年生 14人 20%、先生の人数的変化について、「色々な先生に教えてもらってよかった」が2年生 40人 77%3年生 52人 84%に対して、5年生と6年生はそれぞれ11人 20% 14人 20%であった。

教室の様子の変化について（学年の傾向）

学年	ア		イ		ウ		エ		オ		カ		キ	
(2)教室のようすは去年とくらべてどう変化しましたか	新しい友達 ができた		明るい雰 囲気にな った		学習が楽 しくなっ た		意見がま とまりに くくなっ た		今までと 変わらな い		その他		無回答	
2年生	43	83%	29	56%	35	67%	18	35%	7	13%	1	2%	0	0%
3年生	58	94%	32	52%	30	48%	8	13%	2	3%	0	0%	0	0%
4年生	50	93%	31	57%	35	65%	5	9%	7	13%	2	4%	0	0%
5年生	47	84%	18	32%	18	32%	12	21%	10	18%	4	7%	2	4%
6年生	63	91%	27	39%	14	20%	9	13%	5	7%	1	1%	0	0%
全校	261	89%	137	47%	132	45%	52	18%	31	11%	8	3%	2	1%

先生の人数的変化について（学年の傾向）

学年	ア		イ		ウ		エ		オ		カ		キ	
(5)先生の数が増えたことについてどう思いますか	多くの先生 とお話が できてよ かった		いろいろな 先生に教 えてもら ってよか った		特設クラ ブの数が 増えてよ かった		先生の名 前を覚え るのがた いへん だった		今までと 変わらな い		その他		無回答	
2年生	29	56%	40	77%	6	12%	39	75%	8	15%	0	0%	0	0%
3年生	39	63%	52	84%	3	5%	35	56%	3	5%	2	3%	0	0%
4年生	33	61%	38	70%	31	57%	27	50%	5	9%	1	2%	0	0%
5年生	15	27%	11	20%	13	23%	30	54%	14	25%	1	2%	1	2%
6年生	19	28%	14	20%	14	20%	36	52%	15	22%	1	1%	0	0%
全校	135	46%	155	53%	67	23%	167	57%	45	15%	5	2%	1	0%

報告2 第2次学校適正配置検討委員会の会議経過

第1回 6月30日(金) 第2会議室

諮問と諮問理由の説明 教育長より検討委員会へ諮問

- < 諮問 > 「千葉市立小・中学校の学校適正配置の基本的考え方について」
 < 諮問理由 > 少子高齢化が急速に進行する中で長期にわたり取り組まなくてはならない課題
- ・検討事項 1 学校適正配置のあり方について
 - ・検討事項 2 学校適正配置の取り組み方について

議題1 学校適正配置に係る本市に現状について

- 本市の総人口は増加しているが 15歳未満の年少人口が減少傾向にある
- 11学級以下の小規模校の推移を見ると 10年間で小学校より中学校の割合が増加している
- 小規模校の分布は、本市で昭和40年代に 大規模開発のあった地域と一致している

議題2 第1次学校適正配置の取組みの概要と課題について

- 統合候補5か所の中で、花見川4小・5小が地元合意形成を得て、4月花島小として開校
- 他の地域は、小規模校の課題は認識したが、統合の進め方や、同一中学校区内の統合という取り組み方針に反対意見が多かった。

議題3 検討委員会の進め方について

- 学区調整による学校規模の改善だけでは足りない
- 対象校は 地域の中で話し合っていくべきである
- 跡地は 市民の貴重な財産である
- 統合校へのきめ細かい援助をお願いしたい
- 市としてどう取り組んでいくか示すことが目標
- どことどの学校を統合するかの議論はしない

第2回 9月6日(水) 第2会議室

資料説明 児童生徒数の将来推計など資料提供要望のあったデータを説明

- 第1次では中学校区を変えなかった。第2次では 将来を見据えた論議をしたい。
- 開発状況はつかみにくい面がある。 推計は参考としてデータを押さえてほしい。
- 開発による児童増など緊急性のある課題がある。 原則を決めて対応を考えていきたい。

議題 学校適正配置のあり方について 「適正規模」と「適正配置」

- 子どもにとっての最適空間という 子どもの視点、教師集団という 教師の視点、どう配置したら地域が活性化するかという 地域からの視点がなど新たな視点が必要
- 地域の 安全生確保の課題や学校施設のランニングコストなど 財政的な課題も考える。
- 1学年3学級あればさまざまな教育に対応できる可能性がある。
- 適正規模については小・中学校を分けて考える。
- 学区再編については弾力的運用がどこまで可能かがの課題、 猶予期間を設け見通しを示す。
- 適正配置についてはまず 中学校の統合が先ではないか。中学校の配置で地域を考えていく視点が、小学校の配置を考える上でもポイントとなる。

第3回 10月23日(月) 第1会議室

- 議題1 中間報告「学校適正配置のあり方(骨子案)」について
- 議題2 学校適正配置の取り組み方について

答申

千葉市学校適正配置の基本的考え方 (構成案)

目次

はじめに 目的と基本理念

1 学校適正配置の必要性

(1)「公立学校の教育の充実」

(2)「教育環境の公平確保」

(3)「コストの削減」

2 第1次の学校適正配置からの課題

(1)「規模だけでなく配置からの検討の必要性」

(2)「学校と地域の関係を考慮することの必要性」

(3)「将来を見据えた学校適正配置計画の必要性」

千葉市の人口・児童生徒数の推移

地域特性と学校規模

3 学校適正配置のあり方について

(1)「適正規模」の基準

適正規模を考える視点

適正規模の基準

(2)「適正配置」の基準

適正配置を考える視点

適正配置の基準

(3) 適正配置の基本的考え方

適正規模と適正配置の関係

適正配置の具体案

4 学校適正配置の取組み方について

(1) 将来の見通しを持った学校適正配置

(2) 学校適正配置の具体的取組み方策

統合の条件整備

地域単位の枠組み

新たな教育環境

諮問文 諮問理由

設置要綱

検討事項2「学校適正配置の取り組み方」について

検討を進めるにあたって

どのように検討を進めていったらよいか（規模と配置の基準→具体的取り組み方策）



参考1 第1次適正配置の取組みにおける統合候補の位置関係（黒枠は中学校区）



参考2 第1次の学校適正配置の取り組みで保護者や地域から出た意見より（抜粋）

「望ましい通学区域」に関する意見	・地域のまとまりと通学区域を考慮し、町内自治会区域を分割する通学区域に対応してほしい ・自宅からの直近の学校が通学指定校になるようにしてほしい。 ・通学区域を拡大した場合、安全性配慮を具体的に示してほしい。 ・通学区域の変更や選択性など弾力化を検討してほしい。
「統合に向けて必要な条件の整備」に関する意見	・統合候補を発表して期限まで話し合う進め方では合意は難しい ・統合までの準備期間を確保など、5年先の計画が必要ではないか ・統合までの期間、児童のケアに係る教員を配置してほしい ・統合後に、しばらくの期間教員を増員してほしい。 ・少人数学級にするなど、小規模校の教育環境維持を希望する。 ・より良い教育環境整備を第一とし、学校施設の整備には十分配慮をお願いしたい。児童が新たな気持ちでスタートできる環境整備は必要である。
「地域単位の枠組みによる統合」に関する意見	・地域の理解と協力を得るためには、統合へ向けたプロセスを示す必要があるのではないか。 ・地域単位で学校配置を考えると、地域の中心部に配置する必要がある。 ・地域単位で、統合の計画案を策定しても、保護者と意見の違いがあり、一致するのは困難であった。
「地域の活性化」に関する意見	・統合はまちづくりと一体化して進めるべきではないか ・跡地利用の方向性を示さないのでは、地域の理解は得られない。 ・統合によって生み出される建物と土地は地域の財産ではないか。 ・現在の通学区域では地域行事に支障がある。 ・学校適正配置は行財政改革の視点からも求められる。 ・高齢化する地域の対応した跡地利用を示してほしい。 ・学校は防災や地域行事等で地域の中心的役割を果たしている。

参考3 第1次の学校適正配置で設置された「地域代表による協議の場」

統合候補	旧花見川四・五小	幸町一・四小	磯辺二・四小
名称	地元代表の会	幸町一小と四小を考える会	学校適正配置研究会
設置月日	平成16年11月12日	平成17年1月19日	平成16年11月24日
開催回数	5回	8回	5回
代表の構成	9名 PTA保護者会3名 町内自治会5名 青少年育成委員1名	17名 PTA8名 町内自治会7名 青少年育成委員2名	10名 保護者会4名 自治会地区連4名 青少年育成委員2名
協議の概要	地元代表の会が中心となって、自治会と保護者会の合同アンケートを実施し、通学区域内全世帯の76.4%が統合を容認した結果となった。平成17年5月に、統合へ向けた要望書をまとめた。	教育環境の改善、小・中学校区の見直し、街の形成に合わせた統合等をテーマに話し合いがなされた。取り組みの報告書の中で、今後話し合いを継続する上での条件がまとめられた。	将来を見据え中学校を含めた統合や、磯辺一小を含めた統合についてまちづくりの視点から協議を進めた。地域の意見はまとまらず、学校適正配置研究会を解散し、新たな協議の場を設置する意見書がまとめられた。